

市立川崎高校への中高一貫 教育の導入（平成26年4月）



老朽化の著しかった市立川崎高等学校の全面改築に併せ、中高一貫教育校を開設しました。中高一貫教育校では、6年間というゆとりある学習環境の中で、「学ぶ力」「探究する力」「コミュニケーション力」「実行力」「体力」の育成を目指します。

<議会での審議経過と市の取り組み>

【平成10年 第3回定例会（10月）】

質問

平成9年6月の中央教育審議会の第2次答申の中で、中学校教育と高等学校教育の一貫教育について選択的導入が提言されたことを踏まえて、本市でも研究すべきと以前提案をしましたが、もう少し前向きに強い意欲を持って検討していただけませんか。中高一貫教育は時代の要請であると捉えています。導入についての確かなスケジュールなどを聞かせてください。

答弁

現在、総合教育センターで、調査研究に取り組んでいますが、来年度は本年度の基礎的な調査研究を踏まえ、本市の特色等を踏まえた中・高の連携のあり方の課題等についてさらに具体的な調査研究に取り組んでまいりたいと考えております。

【平成12年 第2回定例会（7月）】

要望

これからの川崎市立高校のあり方について、深い検討を進めてほしいと思いますが、内部検討だけでなく、生徒、教師、父母などの意見を十分酌み取って討議できる協議機関を設けることを要望します。

取り組みとしては・・・

- 平成10年度から6年間にわたり、教育委員会事務局の総合教育センターや学校教育部にプロジェクトを設置し、中高一貫教育についての調査研究が行われました。
- 平成16年11月に川崎市における中高一貫教育のあり方について検討協議を行う機関としてPTA関係者を含む市民、学校教育関係者などで構成する「川崎市中高一貫教育検討委員会」が設置されました。なお、ここでの協議の結果平成18年2月に「本市においても中高一貫教育を導入することが望ましい」との報告が出されました。
- 平成18年2月の報告を受けて、平成19年7月に「市立高等学校改革推進計画」が策定され、市立川崎高等学校を中高一貫教育校として全面改築することを市の方針として決定しました。

【平成18年 第4回定例会（12月）】

質問

中高一貫校をつくり、全市一区から中学生を選抜する学校ができることは、子どもに競争を促し、序列を付け子どもの心を傷つけるようなエリート校づくりにつながるかと危惧します。進学エリート校にはすべきでないと思いますが、どのように考えていますか。

答弁

中高一貫教育校では、高等学校入学者選抜の影響を受けず、ゆとりある学校生活の中で6年間の一貫した計画的、継続的な学習を展開することが可能となりますので、基礎基本の確実な定着、一人一人の個性や適性の伸長、また個性や適性に応じた進路希望の実現などを目指した教育課程を編成することを基本として、主体的に学ぶ姿勢や豊かな人間性、社会性を身につけた生徒の育成を目指してまいりたいと考えております。

取り組みとしては・・・

- 高等学校入学者選抜の影響を受けないゆとりある学校生活の中で、進学のための受験対策に特化するのではなく、総合的な学習の時間を充実させ、独自のカリキュラムを設けました。その中には、体験を通じた探究学習として農業体験などがあります。特に、高校3年で実施する「夢実現プロジェクト」は、5年間の学習を踏まえて希望進路に向け学習を深めるという個性や適性に応じた進路選択ができるようなカリキュラムとなっています。



中学校1年次に実施された農業フィールドワークの様子

【平成19年 第3回定例会（6月）】

質問

中高一貫教育校の入学者の決定については、学科試験や面接、調査書、抽選などが考えられますが、どのような方法で実施しますか。また、受験競争の低年齢化を招くおそれはないのでしょうか。

答弁

小学校での生活や学習、活動経験及び中学校での学習活動への適応能力、学ぶ意欲や適性、創造性や協調性等を的確に把握することを重視して検討してまいります。その際、受験競争の低年齢化を招くことがないよう配慮し、実施時間や内容などが心身ともに小学生にとって過度の負担とならないよう検討してまいります。

取り組みとしては・・・

- 入学者の選考については、過度な受験競争にならないようにするため、また志願者の負担を考慮し、「作文を含めた適性検査」「面接」「調査書」による総合的な選考を採用しました。
- 1 適性検査について、受検者に過度の負担を与えないようにするため、小学校における学習単位時間が45分間であることを踏まえて、検査1単位時間の上限を45分間としました。
- 2 筆記による適性検査だけでなく、意欲や目的意識を測るため、面接を取り入れました。
- 3 調査書については、受験競争の低年齢化を招かないよう低学年次の資料は使用せず6年生の資料で選考することとしました。

【平成21年 第1回定例会（3月）】

質問

定時制も併設される計画と伺っていますが、全日制と定時制、高校と中学校の部活動や体育の授業とが重複しないよう十分なスペースの確保とホームルームなどが行える教室の確保は重要な課題です。どのような取り組みをしますか。

答弁

改築する川崎高校の施設内容は、今後基本構想を策定する中で、様々な教育活動が円滑に展開できるよう、慎重に検討します。

取り組みとしては・・・

●中高一貫教育校になる際の施設面の課題を洗い出し、円滑な教育ができるよう施設を改築しました。

- 1 複数のクラスが同時に使用できるようメイン体育館の面積を大きくしました。
- 2 サブ体育館を設置しました。
- 3 附属中学校と全日制高校では、授業を教科ごとに専用の教室で行うことから、クラスの環境づくりに必要な拠点となる教室であるホームベースを整備しました。
- 4 校舎内を附属中学校用・全日制高校用・定時制高校用などにゾーン分けし、さらに定時制については、定時制の昼間部と夜間部で別のゾーンを設け、それぞれ専用の教室を整備しました。



複数の授業で使用できる大規模なメイン体育館



クラスの拠点となるホームベース

【平成24年 第2回定例会（6月）】

質問

文部科学省の教育の情報化ビジョンの実現に向けて、新設校には川崎市独自の教育ICTソリューションを期待していますが、見解と進捗状況を伺います。

答弁

川崎高校では、ICT機器を活用した効果的な学習ができるよう準備を進め、日常的に利用できる環境を整えてまいります。また現在、情報端末を活用した基礎学力向上授業の教材研究やICT機器を活用した指導法の研究を進めています。

取り組みとしては・・・

●タブレット端末や電子黒板などICT機器を活用した授業を実施しています。

- 1 動画や画像、生徒個々の意見やグループで話し合った意見などをタブレット端末から電子黒板に表示し、授業に活用しています。
 - 2 プレゼンテーションソフトを活用して資料作成し、授業の中で発表しています。
- ICT機器を活用した基礎学力向上を目的とし、eラーニング教材を活用しています。
- 1 朝の始業前と、帰りの学活後の15分間を「eラーニングタイム」と位置付けて、タブレット端末を用いて予習や復習を行い、基礎学力の向上を図っています。
 - 2 英語でもタブレット端末を使用しており、発音チェック機能が備わったeラーニング教材を使用しています。これは、英語検定の対策にも役立っています。



生徒がICT機器を利用しながらプレゼンテーションをしている様子

川崎市立川崎高等学校及び附属中学校

- ◆所在地 川崎市川崎区中島 3 丁目 3 番 1 号
- ◆アクセス 京急港町駅から徒歩 10 分
JR 川崎駅東口から徒歩 20 分
- ◆ホームページ <http://www.kaw-s.ed.jp/jh-school/> (附属中学校)
<http://www.kaw-s.ed.jp/kawasaki-hs/index.html> (高等学校)
- ◆電話番号 044-246-7861 (附属中学校)
044-244-4981 (高等学校)